

神戸の郷

第七六号 令和三年神在月
「発行」十月吉日 代宮家

(錦田)

今季の祭 その一

万九千さん

全国では神無月かみありつきとよばれる旧暦十月を出雲地方では神在月かみありつきと呼び慣わしています。

日本中の八百万神が出雲へ参集されたと伝えられるからです。

私たちはお護りする万九千社では、なほらひ神々が神議りの締めくくりと直会を催し、明朝早く、諸国へとお旅立ちなさると伝えてきました。

まもなく日本中の神様が、私たちの住まいするこの土地のお宮へとお越しになります。

皆様おそろいでお参り下さい。

一、龍神祭、お忌み入り

十一月二十一日

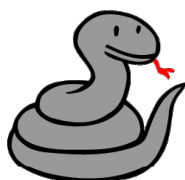
(日) 早朝

※旧暦の十月十七日

龍蛇さまを先導役とし八百万神りゅううじやを斐伊川でお迎えする祭です。

古くから、宮司一人が人知れず行う秘儀とされ、夜明け前に斐伊川の水辺で行います。

水辺での神事が終わると、宮司はひもろぎ神籬（榊の木）に遷られた神々を万九千社へと御案内します。神迎えの祝詞を奏上し、当社はお忌み入りとなります。



お、神在祭
お忌みさん

十一月二十一日
(日)
十一月三十日
(火)

※旧暦の十月十七日～二十六日

日本中の八百万神さまは、十日間
にわたり、当社に神集い、人々の縁
結びや諸産業の繁栄など生きとし生
けるものにとって大切な事柄につい
て話し合いをなさるといいます。

毎日お供え物を献じ、天下泰平、五穀豊穰、日本と世界の平安と繁栄を祈念する祝詞を奏上します。

また、この期間に参拝者の願いに応じた特別祈禱を行います。

御神酒もこの期間に限りまして、からさで祭にちなんだ「からさでの梅酒」になります。

古来、神在祭のことを地元では「お

忌みさん」と呼びました。「お忌み」とは、神々の滞在や会議を邪魔しないように、忌み慎んだ祭事や生活をする事を言います。



一、前夜祭

十一月二十九日
(月)

※旧暦の十月二十五日

戸を閉ざした社殿内で宮司ほか数名が奉仕します。

明日の神等去出祭を前に、宮司ほかの奉仕者が神社に布団を持ち込んで一夜を過ごす、「お籠もり」の神事も行います。

これには、神々のおそばで忌み籠もることで、心身の清浄を極め、霊魂を鎮める意味があるとされます。

十一月三十日
(火)
※旧暦の十月二十六日

一、大祭

・午前中

・特別祈禱、

・神在みくじ等

・午後五時

・湯立神楽

・午後六時

・神等去出神事

神等去出神事

万九千社にとつては、一年で最も重要な祭儀です。

平成二十九年からは、明治初期以来途絶えていた「湯立神楽」を復興しました。

この神楽は、神さまの旅立ちを前に神々と人々の前途、祭場・祭員・参拝者にまつわる全てのモノ、コト

を清々しく祓い清めるものです。

その後、神殿祭を行い、たくさんのお供え物をして会議の締め括りと直会（なおい）をなさる全国の神さまを静かにおもてなします。

日没頃には、神々に明朝の旅立ちの時が近づいたことをお告げする神等去出神事を行い、今後も全国の人々の幸をお守りいただくべく御祈念します。この神事が「からさでさん」と呼ばれています。

宮司が社殿の御扉を梅の小枝で叩きながら、「お立ち、お立ち、お立ち」と三度唱えて神事を閉じます。



名物！

からさでそば

(釜揚げ)

大祭日の昼前から

は、平成三十年に復活しました、万九千さん名物、**釜揚げの出雲そば**：名付けて「からさでそば」の店がでます。

出雲の老舗、玉木製麺ほかが出店



今季の祭 その二

十二月一日(水)

午後三時より

一、あとまつり
一、**立虫神社**
新嘗祭

万九千社から神々が無事に旅立たれたことを寿ぐあとまつりに合わせまして、今年収穫されたお米をはじ

めとする新穀を万九千社と立虫神社の神々にお供えする新嘗祭を齎行します。

農業はもとより諸産業繁栄の感謝を申し上げ、人々の幸福と弥栄を祈念します。

※※※お供え、お米当番の方は、午前八時～午後二時までに、神社参集殿へお供えのうえ御参拝下さい。

お知らせ

御奉納

神等去出広場 休憩舎 一字

株式会社 後藤建設

代表取締役 後藤幹司 様より

このたび、ご実家が千家にある御神縁により、株式会社後藤建設(飯石郡飯南町頓原)の後藤幹司様が神恩感謝のお気持ちから、万九千神社「令和の森づくり」基金に多額の御浄財を御奉納なさいました。



そのうえで、神等去出広場を訪れた参拝者の皆様の憩いの場として、休憩舎一棟を建立中で、まもなく竣工の運びです。多くの方々が喜びになることでしょう。

社報を借りまして、ご紹介にあわせ心より御礼申し上げます。末永く大切にお守りしてまいります。

神在月

特別祈願

「神在みくじ」

十一月五日

～十二月一日

※旧暦の十月一日～二十七日

当社に古来より伝わる稲作の吉凶を占う「お種組」の特殊神事に則つて、神在月の出雲にお集まりの八百万神さまの御前で、祈願者お一人ずつの明年の幸福をお祈りすると共に、吉兆（縁結・仕事・学業・色・方角・文字など）を占います。詳しくは下記または当社公式ホームページをご覧ください。



神在祭
特別祈願



かみ あり

神在みくじ

限定
約500
体

～八百万神さまの御神前で、明年の吉兆を占い、諸願成就を祈りましょう～

特別授与品



- 1 玉串料は、受付時にお納め下さい。
- 2 係の案内で、御神殿へ特別昇殿のうえ玉串を奉ってご祈念いただきます。
- 3 神職により神占いと特別祈願がなされた「神矢と神在みくじ」、「御祈禱札」、「からさでの梅酒」を授与します。
- 4 お帰りの際、授与所にて「お守り」を授与します。約20種のうちからご希望のもの1体をお選び下さい。

お時間の無い方は授与所へお申し出下さい。当日、「お守り」と「御神酒」をお授けし、後日の祈祷後に、「神矢と神在みくじ」、「御祈禱札」をお送りします。送料500円は別途ご負担下さい。

◎玉串料（授与料）
三〇〇〇円

《あとがき》

▼疫神に翻弄された今年も残すところ二ヶ月程。▼「万九千さん」の季節とともに、神立の地を神様とともに、多くの参拝客が来訪なさることでしょう。▼寒風の中ご奉仕いただく深津一統、神社総代、全ての奉仕者の皆様、ありがとうございます。

（文責 宮司 錦田剛志）